

# 黒川地域行政事務組合 黒川消防本部・黒川消防署新消防庁舎 基本構想・基本計画

## << 基本構想編 >>

### 1-1 消防行政の現状

#### (1) 消防本部を巡る地勢

構成市町村	富谷市，大和町，大郷町，大衡村
管内面積	417.0 km <sup>2</sup>
消防機能	1 消防本部，2 消防署，2 出張所，職員 145 人
主要道路	国道4号線，国道457号線，東北縦貫自動車道（大和IC，大衡IC）， 仙台北部道路（富谷IC），三陸自動車道（松島大郷IC），県道12路線
主要河川	一級河川吉田川

#### (2) 構成市町村人口・世帯数

単位：人・世帯

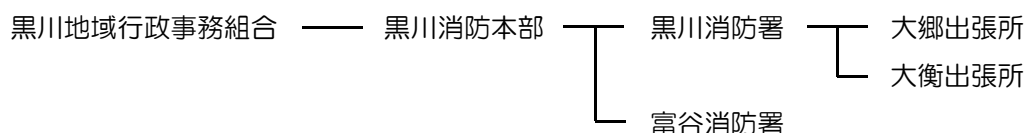
	富谷市	大和町	大郷町	大衡村	合計
人口	52,370	28,311	7,870	5,839	94,390
世帯数	19,744	12,092	2,842	2,107	36,785

※ 令和3年3月末現在宮城県住民基本台帳人口及び世帯数（月報）より

#### (3) 構成市町村の将来人口推計

	富谷市	大和町	大郷町	大衡村	全体
2060年	60,365人	26,625人	5,512人	5,694人	98,196人
最大人口	2060年 60,365人	2020年 29,757人	2010年 8,927人	2020年 6,203人	2040年 100,130人

#### (4) 黒川消防本部体系



**(5) 消防本部・黒川消防署消防庁舎の状況**

① 敷地	<b>4,748.62 m<sup>2</sup></b>			
② 建物	庁舎棟	昭和48年3月建築	延床面積	832.90 m <sup>2</sup>
	庁舎増築棟	昭和54年11月増築	延床面積	182.40 m <sup>2</sup>
	会議室棟	平成26年3月建築	延床面積	101.56 m <sup>2</sup>
	その他車庫・倉庫棟(4棟)			325.70 m <sup>2</sup>
	合計		延床面積	<b>1,442.56 m<sup>2</sup></b>
訓練塔	本訓練塔(1塔), 副訓練塔(1塔)			

**(6) 消防力の現状**

	消 防 部	黒 川 消 防 署				富 谷 消防署	合 計
		本 署	大 郷 出張所	大 衡 出張所	計		
人員	<b>29 人</b>	<b>41 人</b>	19 人	19 人	79 人	37 人	145 人
車両	<b>5 台</b>	<b>10 台</b>	4 台	3 台	17 台	7 台	29 台

※ 消防学校・派遣人員を含む

**1-2 現消防庁舎の課題**

**(1) 消防庁舎敷地の集中豪雨等への対応**

- ・今後の気象変化にも対応できる消防庁舎敷地

**(2) 敷地施設の老朽化と狭隘化<sup>きょうあい</sup>**

- ・執務スペース, 作業スペース, 来庁者対応スペース, 書類保管庫などの確保
- ・緊急車両や装備の駐車, 収納, 運用, 訓練のスペースの確保
- ・時代の変化に対応した施設

**(3) ユニバーサルデザインへの対応**

- ・エレベーターや多目的トイレ設置, 段差解消, 通路幅などの確保

**(4) 女性も働きやすい職場環境の整備**

**(5) デジタル通信指令システムの更新・移設**

## 1-3 新消防庁舎に求められる機能

### (1) 活動拠点機能

- ① 出動体制
  - ・ 出動準備室や資機材庫を設け様々な現場に迅速に対応
  - ・ 車庫と来庁者駐車場の適正配置による緊急車両と来庁者の安全な動線確保
- ② 消防車庫
  - ・ 初動活動の迅速な出動のための緊急車両の配置
  - ・ 将来の車両の増車や大型化への対応
  - ・ 入出庫時の転回スペースと車両点検スペースの確保
  - ・ 接続道路へのスムーズな進入
- ③ 災害作戦本部室
  - ・ 各市町村災害対策本部との連携体制の整備

### (2) 訓練活動機能

- ① 救助技術訓練
  - ・ 各種救助訓練を行う訓練塔（本訓練塔・副訓練塔）の整備
- ② 消防操法訓練（ポンプ操法訓練）
  - ・ 消防団員の基本動作などの訓練スペースの確保

### (3) 啓発拠点機能

- ① 防災展示コーナー
  - ・ 消防用設備・用品などの展示により住民の防災知識の向上
- ② 見学コーナー
  - ・ 地域に親しみのある施設
  - ・ 消防指令センターや車庫などの見学による防災教育の支援
- ③ 研修室
  - ・ 各種講習会や研修会を行う研修室、大会議室の整備
- ④ 体験型訓練施設
  - ・ 初期消火などを体験できる施設の整備

### (4) その他の機能

- ① 安全性
  - ・ 大地震や台風などの自然災害時における消防拠点施設機能の確保
- ② 省エネルギー性能
  - ・ 自然エネルギーの活用を行い、環境保護と経済性に優れた庁舎
- ③ 消防活動支援機能
  - ・ 消防資機材・救急資機材などの機能的な収納保管による効率的な消防救急活動
- ④ 感染症への対応
  - ・ ソーニングによる建物内へのウイルス及び細菌の侵入阻止
- ⑤ 事務補助機能
  - ・ 事務室や書庫、相談スペース、会議室などの適正配置による業務の効率化
- ⑥ 職員厚生
  - ・ 仮眠室や食堂、待機室などの整備により24時間勤務する職員の負担軽減
  - ・ 女性吏員に配慮した施設整備

## 1-4 消防本部及び黒川消防署における将来の人員及び車両整備計画

### (1) 計画人員

区分	令和2年4月 現在人員		将来計画人員		増減人数		備考
	配属 人員	勤務 人員	配属 人員	勤務 人員	配属 人員	勤務 人員	
消防本部	24人	19人	26人	21人	+2人	+2人	予防課の増
黒川消防署	41人	17人	49人	22人	+8人	+5人	警防各隊の増
合計	<b>65人</b>	<b>36人</b>	<b>75人</b>	<b>43人</b>	+10人	+7人	

※ 消防学校・派遣人員を除く

### (2) 車両整備計画

	令和3年4月 現在保有車両	将来計画台数	増減人員	備考
消防本部	5台	5台	—	
黒川消防署	10台	11台	+1台	車両増車は未定
合計	<b>15台</b>	<b>16台</b>	+1台	

## 1-5 新消防庁舎基本計画の方針

### (1) 気象条件に影響を受けない消防庁舎

- ・自然災害による影響を最小限に止めることのできる移転候補地の検討

### (2) 地震に強い消防庁舎

- ・消防活動拠点施設として必要な耐震性能と建築費及び維持管理費を両立する庁舎

### (3) 持続可能な消防庁舎

- ・自然災害により社会的インフラが破壊寸断されても単独で消防活動が行える庁舎

### (4) 地域に開かれた消防庁舎

- ・ユニバーサルデザイン化や動線分離など、安全でわかりやすく親しみやすい庁舎

### (5) 柔軟で経済的な消防庁舎

- ・将来の車両の変化や組織改編など時代の要求に最小限の費用で柔軟に対応する庁舎

### (6) 人と地球環境にやさしい消防庁舎

- ・訪れる人と働く職員、地球環境にやさしい庁舎

# << 基本計画編 >>

## 2-1 新消防庁舎基本指針の整備計画

### (1) 気象条件に影響を受けない消防庁舎

- ・大郷出張所、大衡出張所、富谷消防署との位置関係及び、道路ネットワークを考慮のうえ、水害、土砂災害の無い大和町吉岡西部土地区画整理事業区域地内への移転。

### (2) 地震に強い消防庁舎

- ① 国の基準に準じた耐震安全性の確保
- ② 建物構造方式の検討継続

### (3) 持続可能な消防庁舎

- ① 発電機、蓄電による電源の確保
- ② 災害時に備えた、水、発電及び車両燃料の備蓄

### (4) 地域に開かれた消防庁舎

- ① 多機能な庁舎
  - ・防災研修施設、防災教育施設などを備えた庁舎
- ② 来庁者に親しみのある庁舎
  - ・ユニバーサルデザインの採用
  - ・動線の分離
  - ・案内板や掲示板、打ち合わせスペースの設置

### (5) 柔軟で経済的な消防庁舎

- ① 職員数や組織変更に対応できる庁舎
  - ・ユニバーサルレイアウトの導入
  - ・情報化への対応
  - ・車庫・資機材保管庫等の拡充
- ② 費用負担の少ない庁舎
  - ・本質を求めた庁舎
  - ・長寿命で維持管理が簡単な庁舎

### (6) 人と地球にやさしい消防庁舎

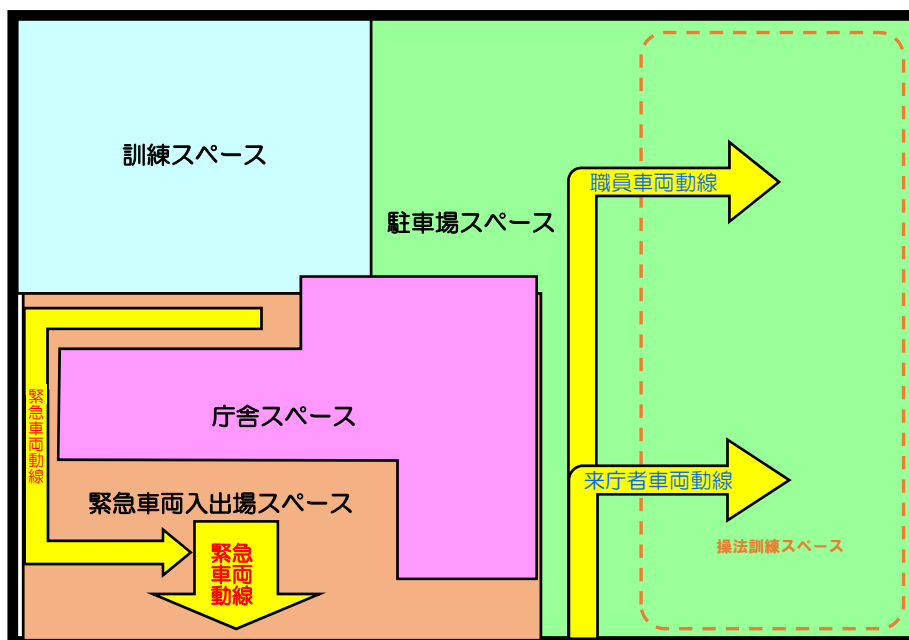
- ① 働く人にやさしい消防
  - ・隊員のプライバシーと交流の場の確保
- ② 地球環境にやさしい消防庁舎
  - ・自然エネルギーの利用
  - ・環境負荷の軽減

## 2-2 ゾーニングと動線

### (1) 敷地ゾーニングと動線

- ・緊急出場車両が速やかに出場できる動線
- ・緊急出場車両と来庁者・職員車両動線及び駐車場・訓練場と重ならない動線

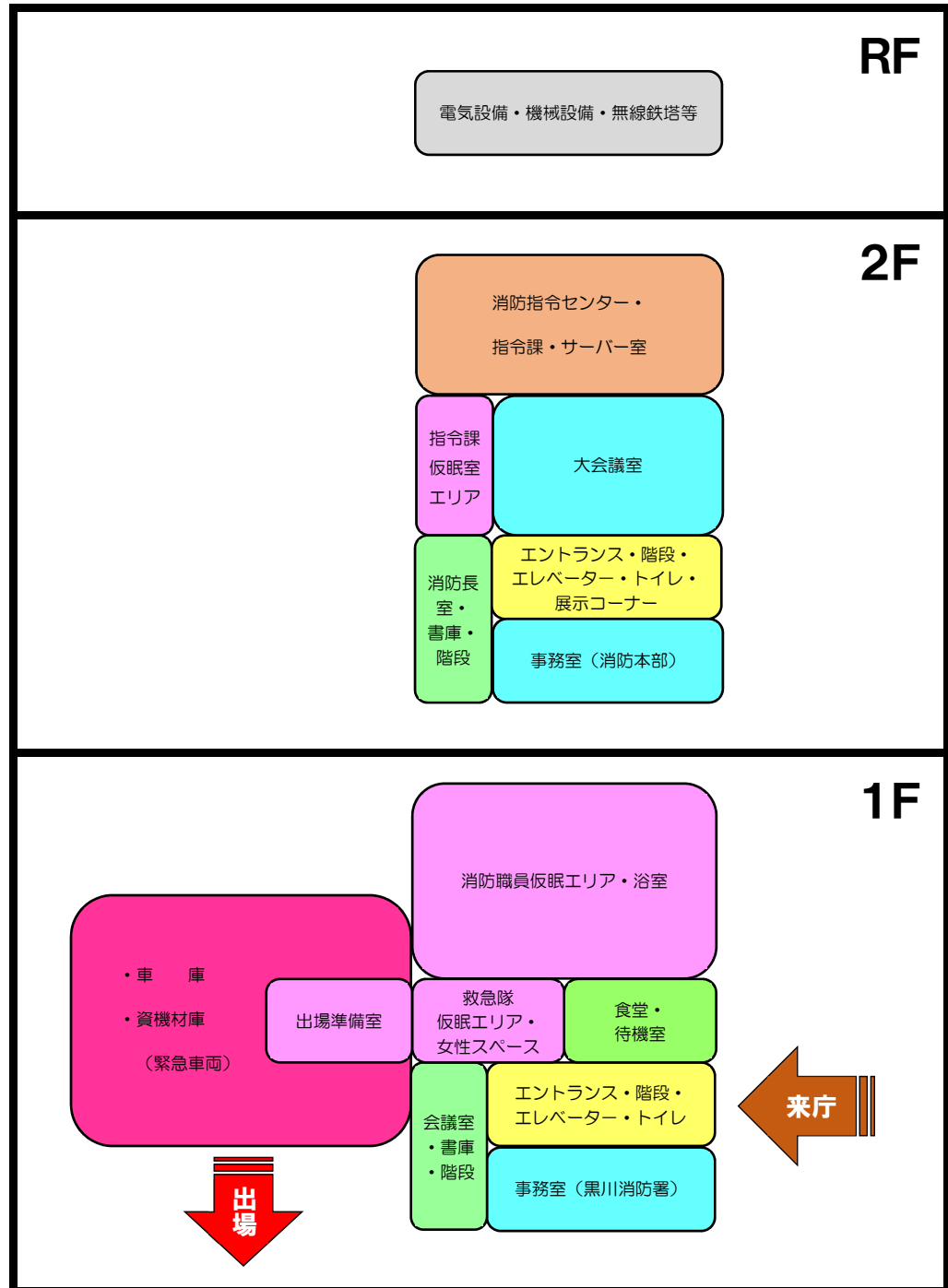
【 敷地ゾーニング・イメージ 】



(2) 庁舎ゾーニングと動線

- ・事務室、仮眠室、訓練施設は速やかに出場できる配置
- ・緊急出場職員の動線と来庁者動線との分離

【 庁舎ゾーニング・イメージ 】



## 2-3 必要な諸室と機能

庁舎棟	1階	黒川消防署事務室、車庫、出場準備室、仮眠室（消防・警防、救急）、生活スペース、女性スペース、資機材保管庫、救急洗浄室、玄関・展示スペース、食堂、待機室、書庫など
	2階	消防長室、消防本部事務室、消防指令センター、仮眠室（指令課）、コンピューター室、大会議室兼災害作戦本部室、書庫など
	屋上	太陽光パネル、受水槽、空調設備、消防無線塔など
本訓練塔	1階	火災原因調査室
	2～5階	訓練施設
副訓練塔	一部2階	訓練施設
屋外施設		駐車場、操法訓練場、危険物倉庫、防火水槽、雨水貯留槽など



## << 新消防庁舎事業計画 >>

### 3-1 建築スケジュール

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
基本設計						
実施設計						
庁舎建築						
消防指令システム移設						
共用開始						

### 3-2 想定事業規模

名称	建物構造	階層	延床面積
庁舎棟	鉄筋コンクリート造	2階	2,500㎡
車庫棟	鉄骨造	1階	
本訓練塔	鉄筋コンクリート造	5階	350㎡
副訓練塔	鉄骨造	一部2階建	250㎡

### 3-3 事業費

#### 1) 概算事業費

概算事業費は、他消防本部建築費を参考に、経年の建築費の変動率を乗じた比較法により求めた金額となります。このため、実施的な事業費は、今後の基本設計並びに実施設計において算定していくものとしします。

項 目	事 業 費
庁舎・訓練塔建設工事費	1,467,000千円
外構工事費	110,000千円
解体工事費	148,000千円
設計・施工監理費	265,000千円
備品購入費	40,000千円
その他	30,000千円
合 計	2,060,000千円

※上記金額には引っ越し費用は含まず。

#### 2) 財源

消防署機能については、国の緊急防災・減災事業債の充当を行いますが、消防本部機能を始めその他の費用については、一般単独事業債及び単独事業費となるため、新消防庁舎の規模や設備内容については、精査を行いながら進めるものとしします。